

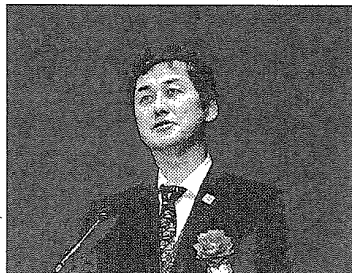
## 防災減災技術で命・暮らしを守る

九州建設技術フォーラム実行委員会は11、12の両日、福岡市の福岡国際会議場で「みんなで守ろういのちとくらし～防災・減災への技術開発～」をテーマにした同フォーラム2022を開いた。産学官が一堂に集い、基調講演やプレゼンテーション・ブース展示を通して、新しい建設技術の開発・活用・普及促進を図った。

### 建設技術フォーラム

11日の開会式で実行委員長の園田佳巨九大副学長は「自然災害のリスクが最も高い九州の土木技術者であるわれわれが世界最先端の防災・減災技術を駆使し、過去に経験がないような災害に見舞われても地域住民の命と暮らしを守っていくことが求められる」と述べた。

講演する藤巻局長



続いて、藤巻浩之九州地方整備局長が「気象の激甚化とウィズコロナ時代を見据えた九州のインフラ」をテーマに基調講演した。藤巻局長は、交通量の統計などから「コロナ感染症の拡大で、人流ははばかられたものの、物流はむしろ増え、交通インフラがそれを支えた」と強調し、21年度策定の九州地方新広域道路交通ビジョンや、高速道路の4車線化事業などのインフラ整備の取り組みを紹介した。

災害復旧では、「災害が起きてもただでは起きない。技術力の向

上につなげた」事例として、熊本地震からの国道57号北側復旧ルートや新阿蘇大橋建設、JR九州や南阿蘇鉄道の鉄道復旧との連携事業などを説明した。

また、ことし4月完成の国道202号春吉橋で、架け替えに当たり整備した迂回（うかい）路橋を存置し、にぎわい空間の創出といった道路の多目的化に応えた事業を例に「時代のニーズに合わせて整備の仕方を変えていくことが必要。災害の激甚化、感染症の拡大といったこれからの時代にそぐうインフラの整備、管理の在り方を模索する」と述べた。

柳家小きん師匠



12日には、落語家の柳家小きん師匠が土木落語「パパは建設コンサルタント」を全国で初めて地方口演した。同作品は、多くの人に土木を身近に感じてもらうため建設コンサルタント協会と創作した落語の新作。祖父の家に向かう小学生の疑問に答えるかたちで、渋滞の解消や災害に備えるまちづくりなど、建設コンサルタントの仕事の理解を深める内容になっている。落語のオチを聞いた会場は笑いに包まれた。

会場では、2日間を通して85社のブース展示や計33テーマのプレゼンテーション、ポスターセッションなどによる技術情報の提供を行った。出展者の技術情報やPR動画などはウェブサイトで公開している。